

富士ゼロックスの新しいサービス「SkyDesk Media Switch」。

企業・団体は導入と運用の簡単さに注目し、利用者は最新情報をリアルタイムに得られるとあって、特に観光・旅行分野での利用の伸びが見込まれている。今回は、すでに活用している企業で、編集、マーケティング、デジタル事業などを展開するcubic（横浜市中区）の事例を紹介する。

cubicのフリーマガジン「mirea」。2006年11月に創刊し、主に横浜・みなとみらいエリアのグルメやファッション、イベント情報などを掲載している。今では同市内を中心に神奈川県内の湘南・箱根エリアなども含め、隔月発行で15万部が読まれるなど、県民の情報源として親しまれている情報誌だ。

同社がmireaに富士ゼロックスの「SkyDesk

富士ゼロックス SkyDesk Media Switch

Media Switchを導入したのは2013年3月。「読者に旬な情報を簡単に届けたい」と考えていたcubicと、市内に開発拠点を置き、「まずは地元横浜の企業に使ってほしい」と願っていた富士ゼロックスの意向が一致し、導入につながった。

SkyDesk Media Switchの使い勝手の良さについて、mi

画やブログなどの関連するデジタルコンテンツの制作を進めればよい。アプリの登録は、定型の管理画面に記入するだけの簡便さだ。また、紙媒体では表現しきれない立体的な情報も簡単に紹介できる。例えば、不動産の物件情報では、写真

sk Media Switchで情報を得た人だけを対象にプレゼントや特典を付け、利用を促していけば、今後利用者は増えていき、各地のいろいろな場面で一般的に使われるようになるだろう」とSkyDesk Media Switch

掲載しきれない記事や立体的情報も紹介可能

rea編集部のディレクター、山田瑠美さんは「これまでの紙媒体では、スペースの問題で掲載できなかった情報を紹介することができると、情報の奥行きを表現できるのが魅力と語る。

さらに、制作時間の有効活用が進んだという。従来二次元コードを利用した場合、印刷時にコードが必要なため、紙面制作と並行して連動したデジタルサイトを作成する必要があった。しかし、SkyDesk Media Switchは、印刷中に動

真だけでは伝わりにくい部屋のスケール感やインテリアの詳細などを動画で紹介することで、実際にイメージしただきやすくなっている」（山田さん）。旅館・ホテルでは、館内や室内の情報を提供するのと同様の使い方ができるだろう。現在、mireaでは1冊につきグルメやインタビュー、連載記事を中心にSkyDesk Media Switchのサービス提供を示すアイコンが平均して20個程度付いており、さまざまなお知らせの情報を読者に届けている。

山田さんは「SkyDesk Media Switchの活用が、観光業界には適しているサービスだ」と思う」と将来の利用拡大を予想している。



みなとぶらりチケットでヨコハマのオススメ撮影スポットを巡る1日プランをご紹介します。



ロイヤルウイングに乗船して海からのヨコハマを撮影
みなとぶらりチケットを提示して、お隣にランチクルーズ！春風を感じながら眺めるヨコハマの風景はサイコーです♪この日は運よく富士山もお目見え。



異国情緒たっぷりの洋館をパチリ
歴史を刻んだ山手の洋館たち。建物だけでなくインテリアも非日常的でシャッターを押す手が止まりません(笑)

誌面で伝えきれない情報は、誌面で掲載している写真にピンクのアイコンを付けて、動画やブログなどに誘導する

富士ゼロックス株式会社
〒107-0052 東京都港区赤坂9-7-3
http://media.skydesk.jp/switch/
お客様相談センター ☎0120(27)4100

受付時間：土、日、祝日および当社指定休業日を除く9時から12時、13時から17時